

1 この科目の構成について

| | | | | | |
|-------|--|-------|---------|-----|-----|
| 教 科 | 国語科 | 科 目 | 古典 | 単 位 | 2単位 |
| 対象コース | 美術コース | 対象クラス | 3年8組・9組 | | |
| 使用教科書 | 精選 古典B (大修館書店) | | | | |
| 使用副教材 | やさしく詳しい古典文法テキスト・ノート(尚文出版) 新明説漢文ノート(尚文出版) 古文単語315(桐原書店) | | | | |

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

| | |
|---------|---|
| 学 習 目 標 | —この科目を学習して何を身に付けてほしいのか— |
| | 古典文法や漢文の句法を使いこなして、古文・漢文を読解する能力を養います。また、古典作品の講読を通して、先人のものの見方や感じ方を知り、広い考え方を身につけます。 |
| 学 習 内 容 | —この科目で学習する大まかな内容— |
| | 以下のことを主として学びます。 <古文>…正確な文語文法を習得し、語彙力を養うことによって、古文を読み解く力を身につけます。 <漢文>…訓読法・基本的な句法を使って、漢文を読み解く力を身につけます。 |
| 学 習 方 法 | —この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか— |
| | (1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。正答に至るまでに必要な事項や思考の手順をノートに書きためましょう。 問題文(口頭での質問も含む)の意図を読み取り、考え、答えを表現する方法を授業で体得しましょう。 (2) 家庭 家庭学習の時間は暗記とドリル学習にあてましょう。知識を定着させる場が家庭学習です。授業で得た知識を確実なものとし、それをういて文章の内容を吟味できるようにしましょう。 |

3 この科目の評価方法について

| | |
|---------------|--|
| 評 価 方 法 | —何をを使って評価するのか— |
| | (1)定期考査→年5回、定期考査を実施します。授業での学習内容から出題します。 (2)小テスト→授業の中で古文単語テストを実施します。 (3)長期休暇中の課題→古文・漢文の演習問題を宿題として課します。 (4)学期中の課題→授業理解の確認のための宿題を課します。 |
| 評価における定期考査の割合 | |
| 70 % | |

4 この科目の評価の観点について

| | |
|-----------|---|
| 評 価 の 観 点 | —この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか— |
| | (1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。 (2) 思考・判断 合理的・客観的な思考や判断ができているかを評価します。 (3) 技能・表現 考えをまとめる力に加え、口頭・文章ともに、受け手に配慮した表現ができる力を重視します。 (4) 知識・理解 定着度だけではなく、知識を得ようとする日常の取り組みを評価します。 |

